

参考資料

計画を推進するための協力と連携

■ 各区の概要（「めざす区の姿」と「まちづくりの視点」* 等）

* 「第6次熊本市総合計画」（区別計画）より抜粋

本計画の施策展開にあたっては、区役所との協力・連携が不可欠です。

ここでは、参考として、第6次熊本市総合計画における区別計画から抜粋した、各区の「めざす区の姿」と福祉分野に係る「まちづくりの視点」についてご紹介するとともに、本計画の策定にあたり、各区において熊本市社会福祉協議会が実施しました「住民座談会」においていただいた地域福祉に関する意見や課題等についても、その一部を抜粋してご紹介します。

※ 住民座談会の結果に関する詳細につきましては、後段の【資料編】（92 ページ）に掲載しております。

中央区

めざす区の姿

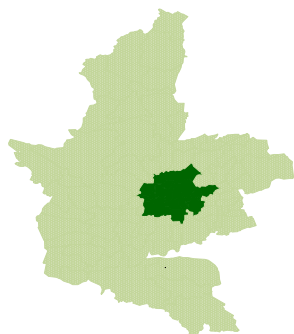
新たな出会いと未来創造の都会 ～つながる、中央区。～

中央区は、多くの人々が暮らし、集い、活動するまちです。ここでは、人、もの、こと、情報などとのたくさんの出会いがあり、日々さまざまな形の「つながり」が生まれています。みんながこれら一つひとつの「つながり」を大切に活かし、そこから生まれる新たな発見をとおして、心豊かで活力ある未来を創り出しています。

ここでは、みんなが支えあって、いきいきと暮らしながら、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、だれもが自分の持てる力を発揮し、夢を未来につなぐことができます。そして、身近な自然や歴史・文化を学び、まちの誇りとして磨き、このまちならではの魅力を未来に引き継いでいます。

私たちは、このような中央区をめざします

中央区の基礎データ



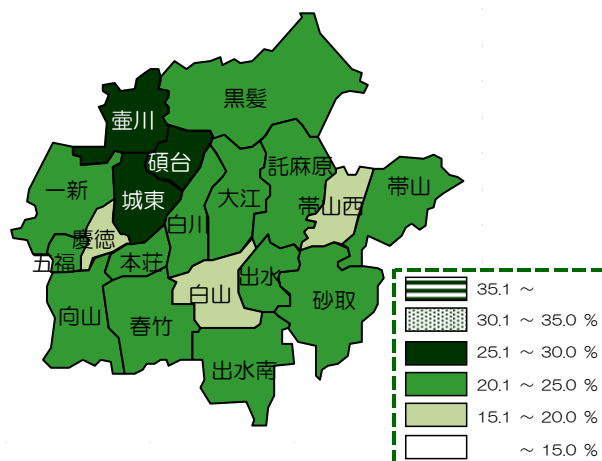
人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (k m ²)	人口密度 (人/k m ²)
175,053	89,326	25.95	6,746

■年齢3区分別人口

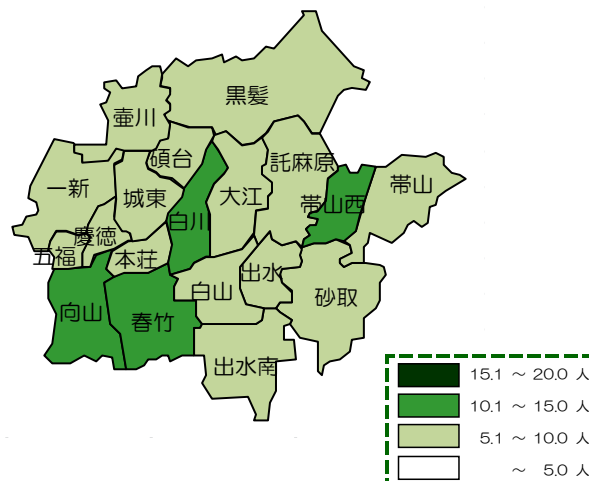
	人口(人)	割 合
年少人口	22,408	12.8%
生産年齢人口	113,427	64.8%
老年人口	39,218	22.4%

熊本市統計情報
H26.4.1 現在

【各校区の高齢化率】(H26.4.1 現在)



【各校区の出生率】(H24 出生数/人口千対)



地域特性と課題

中央区の人口は5つの区の中では2番目に多い一方で、面積は約25 km²と最小であり、人口密度が突出して高く、人口が集中している地域です。しかし、単独世帯が全世帯数の半数以上を占め、年々増加している中、将来的には人口減少やさらなる高齢化が予想され、地域での支え合いや災害等の対応など地域コミュニティの重要性が改めて再認識されています。

まちづくりの視点

“いきいき”と暮らせる健やかなまちをつくる

区民一人ひとりが自ら健康づくりに努めるとともに、高齢者や子育て中の人などが周囲から孤立せずに、みんな仲良くいきいきと暮らせるための環境づくりに取り組みます。

また、障がいのある人も地域の中で暮らしやすいよう支援し、誰もが生きがいを持ち、心豊かな暮らしができるまちをつくります。

- 高齢者を孤立させない仕組みづくり
- 子育て支援や悩みを相談できる交流の場づくり
- 障がいのある人が自らの能力を発揮できる場づくり
- 生活習慣病予防などの校区で取り組む健康づくり

東 区

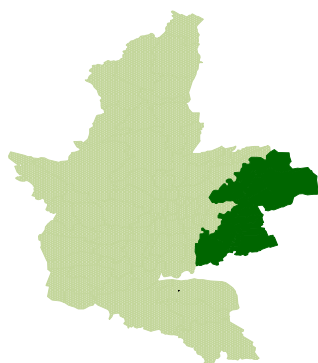
めざす区の姿

自然豊かな 笑顔あふれる未来のまち 東区

東区は、豊かな自然環境と快適でにぎわいのある住環境の中で、自然とふれあい、みんなの笑顔があふれ、活気に満ちた未来のあるまちを目指していきます。

そのためには、自然や地域の歴史・文化を大切にするとともに、人と人とのつながりや地域と地域の結びつきなど新たな絆を広げながら、みんなで支えあい、誰もが健康で安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

東区の基礎データ



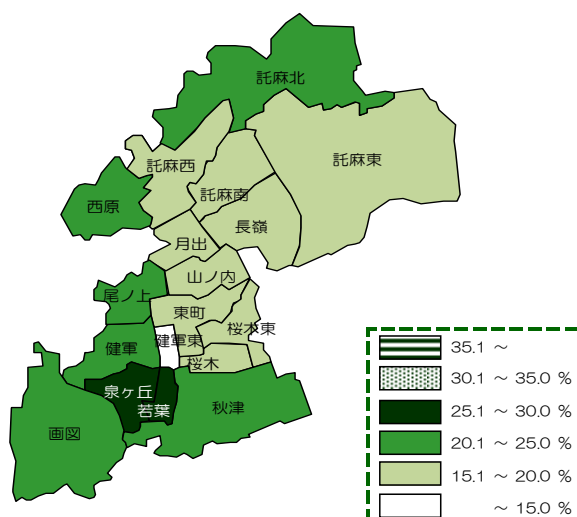
人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (k m ²)	人口密度 (人/k m ²)
190,547	82,537	50.42	3,779

■年齢3区分別人口

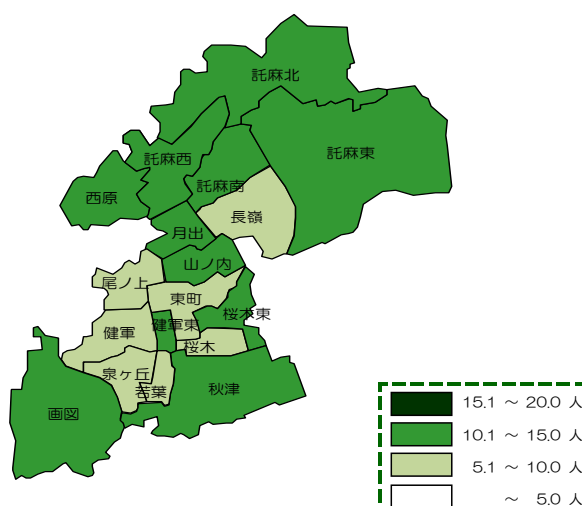
	人口(人)	割 合
年少人口	29,869	15.7%
生産年齢人口	122,703	64.4%
老年人口	37,975	19.9%

熊本市統計情報
H26.4.1 現在

【各校区の高齢化率】(H26.4.1 現在)



【各校区の出生率】(H24 出生数/人口千対)



地域特性と課題

東区は、公共施設や商業施設、さらには基幹道路などの都市機能と江津湖や託麻三山などの自然環境が調和した住環境に優れたまちです。

各地域では、校区を単位としたまちづくりに積極的に取り組まれています。近年の人間関係の希薄化、価値観の多様化、さらには少子高齢化などまちづくりを取り巻く環境は厳しさを増しています。

このような中、災害の対応や防犯、子育て、高齢者対策など、地域と区役所との連携・協力はもとより、地域自らがこの課題解決に向けて取り組む地域力の強化が求められています。

まちづくりの視点

誰もがいきいきと暮らせるまち

住み慣れたまちで誰もが健康で生きがいをもって暮らしていくために、生活習慣病等の疾病予防や子育て支援、また高齢者や障がいのある人へのきめ細かな支援など、地域全体で助け合うまちづくりを進めていきます。

- 生活習慣病予防や歯科保健、食育等の健康づくり活動の推進
- 地域全体で子どもの成長を支え、安心して子育てができる子どもの育成環境づくり
- 高齢者や障がいのある人を地域全体で見守り、支え合う体制の充実と、地域活動に参加しやすい機会の提供

西 区

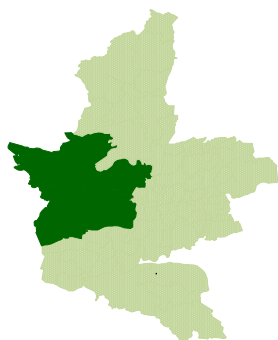
めざす区の姿

金峰望む 華のあるまち西区

海のめぐみ、山のめぐみ、大地のめぐみ、いにしえからの歴史、息づく伝統・文化などを活かし、区民誰もがいつまでも健康に暮らすことができ、西区全体にいろいろな華が咲き誇る明るい笑顔があふれるまち。こんな素敵なまちとなるよう、区民と行政が協働でまちづくり『華づくり』に取り組みます。

※「華」には「よく繁栄するさま、盛んになるさま」という意味もあります。このようなことから、区民の皆さんをはじめ恵まれた自然や伝統・文化、農水産物などを西区の魅力形成する貴重な財産と捉え、この一つひとつの財産に「磨き」をかけることで、それぞれが輝く「華」にしたいという思いを込めています。

西区の基礎データ



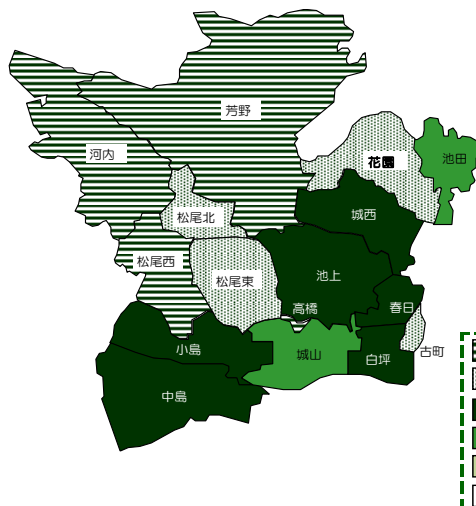
人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
93,204	41,618	88.80	1,047

■年齢3区分別人口

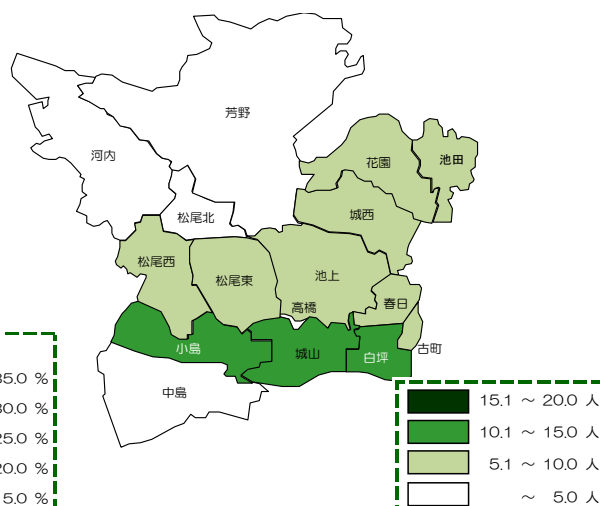
	人口(人)	割 合
年少人口	11,955	12.8%
生産年齢人口	55,702	59.8%
老年人口	25,547	27.4%

熊本市統計情報
H26.4.1 現在

【各校区の高齢化率】(H26.4.1 現在)



【各校区の出産率】(H24 出生数/人口千対)



地域特性と課題

西区は、金峰山や有明海など豊かな自然を有し、その恵みにより古くから農水産業が営まれてきました。また、今日まで先祖代々、祭りや神楽などの伝統・文化も受け継がれるなど、地元の結びつきも比較的に強い地域といえます。上熊本周辺地区では古くから市街地が形成されており、熊本駅周辺では新幹線開業に伴う再開発等が進み、近代的な街並みが形成されつつあります。また、人や物の交流拠点である熊本駅や熊本港、市民の台所である田崎市場も有しています。一方で、「少子高齢化」や「人口減少」といった課題も抱えています。

このように、西区は、海・山・川などの自然、農業・漁業などの産業、鉄道や港などの交通、新旧の市街地を有するとともに、今日の日本が抱える課題にも直面しており、まさに日本の縮図のようなところといえます。

まちづくりの視点

安全安心のまちづくり

西区は自然が豊かな反面、自然災害の危険も高く、大雨による河川の氾濫やがけ崩れ、台風による高潮や地震による津波等の災害に備えて、更なる対策を講じておく必要があります。そのため、災害時の関係機関との情報共有や災害時要援護者の安全確保を図るほか、日ごろから見守りが必要な高齢者の支援を行うなど、災害に強く誰もがいつまでも健康に暮らせるまちを目指します。

- 治水対策などに取り組むとともに、災害時の迅速な対応に向けた関係機関との情報の共有化
- 災害時要援護者の的確な把握による災害時の安全確保
- 見守りが必要な高齢者の支援
- 障がいの有無にかかわらず、誰もが健康で生きがいを持ちながら安心して暮らせる健康づくり・生きがいづくり

子育てしやすいまちづくり

まちづくりビジョン策定に伴い実施した区民アンケート結果によると、西区の住環境に対する住民の満足度は総じて高いものの、子どもを産み育てやすい環境の充実などが求められています。また、安心して学び遊べる環境づくりや地域ふれあい交流活動の推進など、より子育てしやすいまちを目指します。

- 良好な住環境を活かした、子どもを生み育てやすい環境の整備
- 母と子の健康づくりの推進
- 地域における子育て支援の充実
- 子どもたちの通学路の安全性確保など安心して学び、遊べる環境づくり
- 子どもたちの地域参加活動や地域ふれあい交流活動の推進

南 区

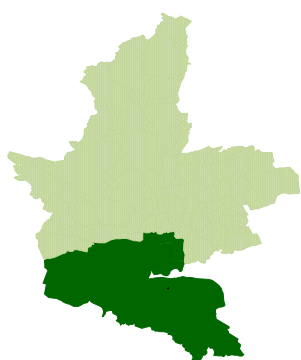
めざす区の姿

～みんなでつなぎ、みがき、ひろげる～
いきいき暮らしのまち 南区

『いきいきとした自然や緑が育まれ、活きの良い水産物、新鮮な農産物がとれ、永い歴史・文化が息づき人々が活発に交流し、暮らしの中に伝統文化のある粋で、子どもから大人までが、安全で健康に生き生きと暮らす』

このようなまちづくりを、世代を超えて絆をつくり、南区の魅力を磨きあげ、地域全体と将来に向かって広げていきます

南区の基礎データ



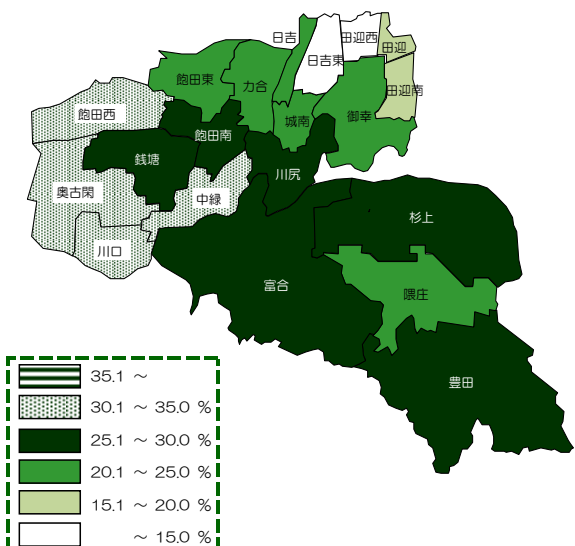
人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
126,994	50,846	109.76	1,157

■年齢3区分別人口

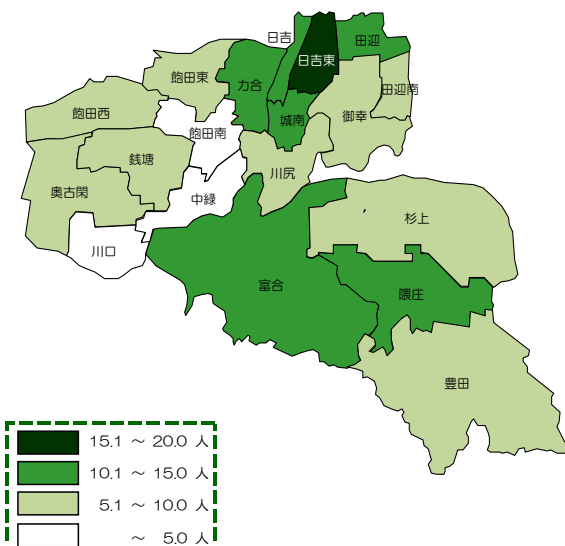
	人口(人)	割 合
年少人口	20,255	16.0%
生産年齢人口	77,621	61.1%
老年人口	29,118	22.9%

熊本市統計情報
H26.4.1 現在

【各校区の高齢化率】(H26.4.1 現在)



【各校区の出生率】(H24 出生数/人口千対)



地域特性と課題

南区は、加勢川、緑川などの一級河川が東西を貫流し、雁回公園や塚原古墳公園などの拠点的な公園緑地を有する、自然豊かな地域で、区域の半分以上を占める農地では、米、麦の他、トマトやナス、花きなどの施設園芸も盛んに行われ、アサリやハマグリ、海苔など漁業資源にも恵まれています。また、熊本藩川尻米蔵跡や六殿神社楼門などの歴史的資源も多く、それらを活かしたまちづくりが活発に行われています。

しかし、近年の地域コミュニティの希薄化や高齢化社会の進展、防災や防犯への対応、子育て中の親の孤立化など課題も多く、このような課題を解決していくためには、自助、共助、公助の役割分担とその意識を高めながら、区民、事業者、地域団体等と行政が協働でまちづくりに取り組むことが求められています。

まちづくりの視点

みんなが健康で元気なまち

南区は、拠点的なスポーツ施設や公園などを多数有しており、健康づくりに取り組むための環境に恵まれています。住み慣れた地域で、誰もが生きがいをもって、いつまでも健康に暮らすための取り組みが求められています。

そこで、子どもから大人までが、健康に生き生きと暮らす、『みんなが健康で元気なまち』をめざします。

- 一人ひとりが健康に関心を持ち、自ら健康づくりに取り組む環境づくりの推進
- 地域の資源を活用し、楽しく運動できる取り組みの推進
- 高齢者・障がい者の生きがいづくりの推進

地域ぐるみで子どもを育てるまち

南区の年少人口（15歳未満）比率は15.8%（H24.10.1現在）で、市平均の14.5%を上回っています。一方で、近年の核家族化等により、子育ての負担感が増している状況にあります。地域全体で子育てを支えることや子ども達がのびのびと健やかに育つ環境づくりが必要です。

そこで、子どもたちをいきいきと育てられるよう、『地域ぐるみで子どもを育てるまち』をめざします。

- 世代間の交流を深めることによる子どもたちの思いやりの心の育成
- 子どもたちがのびのびと学び、遊べる環境づくりの推進
- 人や地域のつながりを深めることによる子育てしやすいまちづくりの推進

北 区

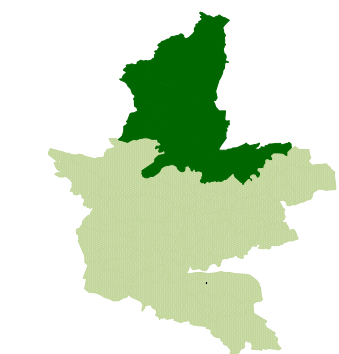
めざす区の姿

ず〜っと住みたい “わがまち北区”

～歴史・自然・文化・人がつながり個性輝くまちをめざします～

北区には、多様な歴史や豊かな自然環境、住民同士のつながりや個性あるまちづくり活動の実績があり、住民の多くが北区に住むことを誇りに思い、子どもや孫、新たに移住してくる人に対しても同じような思いを抱いて欲しいと願っています。その思いを大切にしながら、様々な歴史・自然・文化・人がつながり、個性輝くまちをめざします。

北区の基礎データ



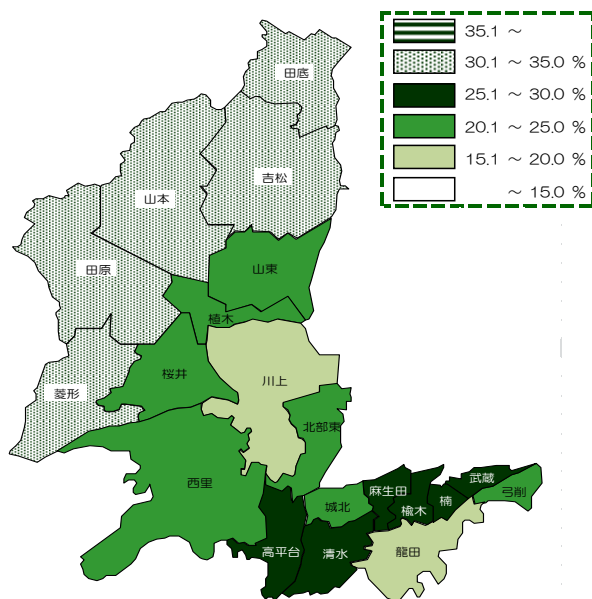
人 口 (人)	世帯数 (世帯)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
146,215	61,376	115.35	1,268

■年齢3区分別人口

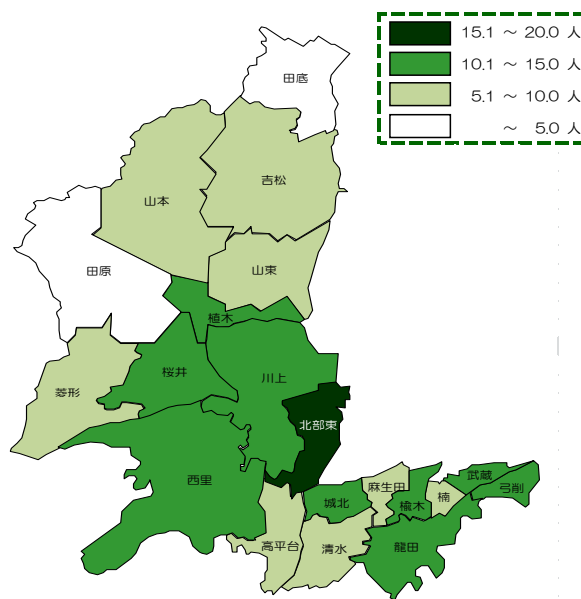
	人口(人)	割 合
年少人口	21,308	14.6%
生産年齢人口	88,983	60.8%
老年人口	35,924	24.6%

熊本市統計情報
H26.4.1 現在

【各校区の高齢化率】(H26.4.1 現在)



【各校区の出産率】(H24 出生数/人口千対)



地域特性と課題

北区は、20 校区・1 地区で構成されており、まちづくり交流室の所管区域ごとに清水地域(4 校区)、龍田地域(5 校区)、北部地域(3 校区)、植木地域(8 校区 1 地区)の 4 つの地域に分けることができ、これらの地域は、いずれも市町村合併により熊本市となった経緯があります。

また、5 区の中で 3 番目に人口が多く、高齢化率は西区に次いで高く、校区別では、30%を超える校区が 3 校区あります。全国的に少子高齢化が進行する中、地域の状況等を踏まえながら少子高齢社会に対応したまちづくりが求められています。

まちづくりの視点

健康と暮らしの安全・安心の向上

健康でいつまでも住み慣れた地域で生きがいを持って暮らしていけるように、各世代に応じた健康づくりの推進や地域で高齢者や障がい者を支え、子どもたちを見守っていける環境づくりに取り組みます。

また、防災体制の強化、防犯活動の推進等に取り組み、安全で安心なまちを目指します。

- 一人ひとりが自ら実践する校区単位の健康まちづくりの推進
- 高齢者や子どもが安心して生活できるような地域での見守り活動の支援
- 自主防災組織との連携による防災体制の充実
- 地域における通学路のパトロール、青少年の健全育成など、子どもの安全対策や防犯対策の推進

各区の住民座談会で出された主な意見・課題

中央区

校区	回	開催日	会場	参加者数
託麻原	第1回	平成26年7月15日(火)	託麻原地域 コミュニティセンター	56名
	第2回	平成26年7月25日(金)		55名
合 計 (のべ)				111名

暮らしに関すること	・ 近所付き合いの希薄困難化 ・ 世代間・地域交流が少ない ・ 各種団体組織の衰退
高齢者に関すること	・ 高齢者が集まる場が少ない ・ 地域の集まり等に参加者が少なく、交流が広がらない ・ 高齢世帯や認知症の方の支援体制が万全ではない
子ども・子育てに関すること	・ 子どもとその親との地域交流の希薄化 ・ 登下校や日常生活における子どもの環境が安全ではない

東 区

校区	回	開催日	会場	参加者数
東 町	第1回	平成26年7月20日(日)	東町地域 コミュニティセンター	35名
	第2回	平成26年7月29日(火)		38名
	第3回	平成26年8月3日(日)		41名
合 計 (のべ)				114名

高齢者に関すること	・ 高齢者が気軽に集まれる場が少ない ・ 地域とのつながりが希薄な方や支援が必要な方が増えている
子ども・子育てに関すること	・ 子育て世帯と地域の関係が希薄 ・ 子どもが安心して遊べる場所が少ない ・ 登下校の安全に関すること
暮らし・環境・安全に関すること	・ 車を持たない方については病院・買い物などが不便 ・ ゴミ出しが困難な方がいる
災害に関すること	・ 災害に対し地域住民の危機意識が薄い ・ 災害時に避難の支援を要する人への対応が難しい ・ 避難所について

西 区

校区	回	開催日	会場	参加者数
城山	第1回	平成26年7月17日(木)	城山地域 コミュニティセンター	36名
	第2回	平成26年7月31日(木)		44名
	第3回	平成26年8月7日(木)		36名
合 計 (のべ)				116名

高齢者に関すること	・ 閉じこもりがちな高齢者の見守り ・ 高齢者の生きがい・仲間づくり
子ども・子育てに関すること	・ 児童の見守り体制 ・ 子育て世帯との繋がりの希薄化、児童との交流機会の減少
暮らし・人とのつながりに関すること	・ 地域住民間のつながりが希薄化している ・ 世帯間交流の場が少ない
災害に関すること	・ 災害時の支援及び避難体制

南 区

校区	回	開催日	会場	参加者数
田迎南	第1回	平成26年7月8日(火)	田迎南地域 コミュニティセンター	56名
	第2回	平成26年7月22日(火)		47名
	第3回	平成26年8月5日(火)		43名
合 計 (のべ)				146名

高齢者に関すること	・ 高齢者の見守り（安否確認）体制 ・ 高齢者の集いの場が少ない
災害に関すること	・ 災害時の支援及び避難体制
子ども・子育てに関すること	・ 児童の見守りについて ・ 児童と地域との交流の場が少ない ・ 子育てサロンの工夫
暮らし・人とのつながりに関すること	・ 地域住民間のつながりが希薄化している ・ 社会資源が不足している ・ 各種団体間の連携が充分に図れていない

北 区

校区	回	開催日	会場	参加者数
弓 削	第1回	平成26年7月7日(月)	特別養護老人ホーム さわらび	62名
	第2回	平成26年7月20日(日)		59名
	第3回	平成26年7月25日(金)		58名
合 計 (のべ)				179名

高齢者に関すること	・ 高齢者が交流できる機会や集まれる場が少ない ・ 買い物や外出が不便 ・ 高齢者への支援や見守りが充分ではない
子どもに関すること	・ 子育て世帯と地域のつながりが希薄になっている ・ 子どもの遊び場が少ない、登下校時の見守り
暮らしと環境に関すること	・ 住民間のつながりが希薄化、世代間交流の場が少ない ・ 災害時の支援体制が十分ではない